

タイ語の動詞/前置詞 ผ่าน の用法分析

高橋 清子

1. はじめに

筆者はこれまで共同研究に参加し、タイ語母語話者に様々な移動場面を映したビデオクリップを見せて各場面を見終わった後すぐにそれを描写してもらうという発話実験をいくつか実施してきた。その発話実験の1つ、多様な経路の表現を引き出すことを目的とするC実験¹は2016年に実施した(高橋2018b)。(1)と(2)はC実験の発話データに含まれていたผ่านを使った移動表現の例である。(1)は人の物理的移動を描写した表現であり、(2)は実際には見えない視線の虚構移動(Takahashi 2001, to appear; 高橋2017: 150-153; Talmy 1996: 224-226, 2000: 115-116)を描写した表現である。

(1) เพื่อนเดินผ่านหน้าฉันไปหาจักรยาน

友人は歩いて私の前を通過し自転車に近づいて行った。

「เพื่อน 友人」「เดิน 歩く」『「ผ่าน 通り過ぎる」「หน้า~の前」「ฉัน 私」』

「ไป 行く」『「หา 近寄る」「จักรยาน 自転車」』

(2) เพื่อนมองเข้าไปในตึกเล็กผ่านประตู

友人は小さな建物の中を出入口から覗き込んだ。

「เพื่อน 友人」「มอง 見る=視線を伸ばす」

(視線が)「เข้าไป 入る」「ไป 行く」『「ใน~の中」「ตึกเล็ก 小さな建物」』

『「ผ่าน~を通過して」「ประตู 出入口の扉」』

¹ C実験の概要は高橋(2018b: 438)の脚注1に述べられている。

(1)でも(2)でも ผ่าน が移動の経路（人や視線の通過場所）を明示している点は同じだが、その使われ方が異なる。(1)では ผ่าน が「通り過ぎる」という意味を表す経路動詞²として使われている。前置詞句「หน้าฉัน 私の前方において」を従えた経路動詞「ผ่าน 通り過ぎる」（私の前を通過する）が様態動詞「เดิน 歩く」の後ろ、且つ、直示動詞「ไป 行く」及び到着動詞句「พารถจักรยาน 自転車に近寄る」の前に生起している。³ この統語位置において ผ่าน は動詞句連続体を構成する動詞の1つとして機能し、動的な通過事象を表現する。タイ語動詞に必須項はなく、動詞 ผ่าน も他の動詞と同様、名詞句や前置詞句を伴わないことがある（例：เพื่อนเดินผ่านไป）。一方、(2)では ผ่าน が「～を通過して」という意味を表す経路前置詞として使われている。経路前置詞句「ผ่านประตู 出入口の扉を通過して」が動詞句連続体「มองเข้าไปในตึกเล็ก 見て（伸ばされた視線が）小さい建物の中に入って行く」の後ろに添えられている。この統語位置において ผ่าน は前置詞として機能し、静的な通過場所の情報を副詞的に付加する。動詞 ผ่าน と異なり、前置詞 ผ่าน は必ず通過場所を表す名詞句を伴う（容認できない例：*เพื่อนมองเข้าไปในตึกเล็กผ่าน）。前置詞の後ろの名詞句は必須項だからである。

ここで、タイ語の経路動詞と経路前置詞はどのように区別されるのか、それぞれどのような異なる特徴を持っているのか、という点を明確にしておきたい。先行研究（Takahashi 2005: 115, 2009: 189, 2017: 49, 2020: 130-133）では以下のように説明されている。第一に、経路動詞は動的な移動事象を表現するが、経路前置

² 具象的な「物理的空間を通過する」という経路の意味の他、「経験を経る」「基準を達成する、障壁を乗り越える、パスする」「時間が経過する」といった比喩的な意味でも動詞 ผ่าน は使われる（TNCの例：ผ่านกระบวนการต่างๆ 様々な過程を経る、รหัสผ่าน パスコード、ระยะเวลา ผ่าน ไป 2 เดือน 2 かが過ぎる）。本稿 3.1 節の例(8a), (8b), (8c)も参照のこと。

³ 単一移動事象を表す動詞句連続体内で異種類の移動動詞がどう並ぶのか、その生起順については、高橋（2017: 145, 149）の表 2-5 あるいは Takahashi（2020: 127）の表 2 を見て欲しい。

詞は静的な経路参照物の意味役割を表示する。第二に、経路動詞は動詞否定辞（ไม่ や ณ など）によって否定され得るが、経路前置詞は動詞否定辞によって否定されることはない。第三に、経路動詞は経路参照物を表す名詞句を従えても従えなくてもよいが、経路前置詞は必ず経路参照物を表す名詞句を従えて経路前置詞句を構成する。第四に、経路動詞句と（主題化されていない）経路前置詞句が同一節中で共起するとき、「経路動詞句は前、経路前置詞句は後ろ」という順番で生起する。第五に、（動詞句連続体を含む）単一節の中で、経路動詞句は（移動動詞の種類ごとに決まっている）生起位置を逸脱して生起することはないが、経路前置詞句は主題化されて節の先頭に生起し得る。

จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996, 1998) の調査⁴によると、ผ่าน は前置詞としてよりも動詞として使われることが多い（動詞用法 71.53%、前置詞用法 28.47%）。また、抽象的な前置詞用法——抽象的道具「～を通じて」（例：เผยแพร่ผ่านสื่อมวลชน มสเมเดีย ผ่านを通じて流布する）と時間経過「～を経て」（例：คงทนผ่านกาลเวลา 時を経て不変だ）——に限ってその前置詞句は文頭に生起し主題化され得る。具象的な前置詞用法——具象的道具「～を通して」（例：นำเสนอผ่านเครื่องฉายแผ่นใส OHP フィルム映写機を通して提示する）——の前置詞句は文頭に生起することなく主題化され得ない。今から 30 年ほど前の 1990-1994 年に出版された雑誌記事を分析データとしている จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996, 1998) は、ผ่าน の前置詞用法として道具「～を通して、～を通じて」と時間経過「～を経て」だけを挙げている。(2)のような通過場所を表す経路前置詞「～を通して」の用法については本文中において言及がない。⁵

⁴ 調査結果の概要については高橋 (2021: 238-241) の 2.1 節に簡潔にまとめられている。

⁵ 一方で、ผ่าน と同じように動詞としても前置詞としても機能する ตาม には経路の前置詞用法を認めている。動詞 ตาม は移動事象の意味「沿う、従う、辿る」を表し、前置詞 ตาม は起点/起源、着点/目標、経路を含む位置の意味あるいは道具/手段の意味「～に沿って、～に従って、～に応じて」を表すとする。ผ่าน とは対照的に、ตาม は前置詞用法の使用頻度が圧倒的に高く（動詞用法 4.16%、前置詞用法 95.84%）、具象的な前置詞用法であっても文頭に生起し主題化され得る（จรัสดาว อินทรทัศน์ 1996: 57-58, 98）。高橋 (2021: 247) によると、特に使用頻度が高い ตาม の用法は抽象的な前置詞用法（例：เขียนภาษาไทยตามหลักอักษรวิธี 正字法の原

しかし จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996: 185) の巻末付録には次の 1 例だけ経路前置詞 ผ่าน の例が挙げられている。หากนำลูกกลับสู่ใต้บาดาลผ่านแม่น้ำ 5 สาย 竜は子を連れて、インドの 5 大河を通過して、竜の住処の地下最下層へ帰っていった。⁶

筆者自身、ผ่าน は大抵、移動表現の中では経路動詞として使われ、それ以外の表現の中では抽象的な道具を表す前置詞として使われているのを目にし、また耳にしてきた。C 実験の発話データを検討する中で初めて筆者は経路前置詞としての ผ่าน に遭遇した。

本稿の目的は、このように動詞としても前置詞としても機能するが動詞用法の使用頻度が高い ผ่าน の使用実態について大規模電子コーパス (TNC: Thai National Corpus) を利用して質的、数量的に調査することである。ผ่าน がどのように使われているのかを探り、現代タイ語における ผ่าน の使用傾向を分析したい。特に(2)のような通過場所を表す経路前置詞 ผ่าน は実際どの程度使用されているのか、どのような条件でそのような前置詞用法が実現しているのか、といった点に焦点を当てて調査する。調査結果をタイ語教育に応用したい。

本稿の構成は以下の通りである。まず、19 世紀に編纂されたタイ語辞書の Caswell (1846) と Bradley (1873) を使って当時の ผ่าน の基本的な意味と使い方はどうであったのかを確認する。さらにタイ諸語 (Tai languages) の辞書や語項目対応表を活用し、中古漢語 (Middle Chinese) 以前の中国語からの借用語 ก้าว と関連動詞 ผ่าน、ข้าม の意味関係について考える (第 2 節)。次に、TNC を使って実施した 2 つの調査の結果を報告する (第 3 節)。最後に、本稿の調査結果の概要をまとめる (第 4 節)。

則に従ってタイ語を書く) である。

⁶ จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996: 185) に挙げられているその他の前置詞用法の例 「แม่น้ำปายมีทิศทางแห่งการรินไหลมาค้ำผ่านตัวเมืองแม่ฮ่องสอน ปายい川にはメーホンソーンの街の傍を流れて流れる方角がある」「ผู้ไปชมจะเดินผ่านผลงานต่างๆ ด้วยความพิศวงงงงวย 訪れる観客は呆気にとられながら歩いて様々な展示作品を通り過ぎる」「ท่านต้องก้าวผ่านกองไม้ประดับที่ขอบสนาม 貴方は広場の縁の植栽を歩いて通過しなければならない」は、筆者の基準では、動詞用法に分類される。

2. 語義の記述：文献調査

Caswell (1846: 527) と Bradley (1873: 438)⁷ による ผ่าน の語義の説明をそれぞれ(3)と(4)に転載する。(4)の中で使われている ผาด⁸ の語義の説明 (Bradley 1873: 436) も(5)に転載する。本稿の日本語訳は全て筆者による。

- (3) ผ่าน นั่นคือเดินขวางหน้าไปก็เรียกว่าผ่านหน้าไปเหมือนคำพูดว่าเมื่อตะกี้มันเลี้ยวผ่านหน้าเข้าไป

ผ่าน とは「歩いて前を横切って (ขวางหน้า) 行く」ことである。そのことを、ผ่าน を使って「ผ่านหน้าไป 前を通り過ぎて行く」と言う。例えば「つい先ほど蛇が這って私の前を通り過ぎて行った」と言うように。

- (4) ผ่าน, คือผาด, คนเดินผาดไปน่านบ้านนั้น, เขาว่าคนเดินผ่านไปน่านบ้านนั้น.⁹

ผ่าน とは「素早く通り過ぎる、さっとかすめて通る (ผาด)」ことである。「人が歩いて家の前を素早く通り過ぎて行く」ことを、ผ่าน を使って「คนเดินผ่านไป น่าน 人が歩いて家の前を通り過ぎて行く」と言う。¹⁰

⁷ これらの辞書の記述には現代タイ語と綴りが違う単語も使われている。原文をそのまま引用した(3)–(5)にもそのような単語 (เดิน, ตะกี้, นำ, ไปน่าน) があることに留意されたい。

⁸ 現代タイ語の ผาด は視覚動詞と共に起して「ちらっと見る、さっと見る」という意味で使われることが多い。

⁹ 興味深いことに、Bradley (1873) が用例として挙げている 19 世紀当時の移動表現(4), (5)の語順は現代タイ語の移動表現(1)の語順と異なる。(1)は「歩く＋通り過ぎる＋～の前＋行く」という語順だが、(4), (5)は「歩く＋通り過ぎる＋行く＋～の前」という語順だ。現代タイ語話者が(4), (5)を素直に解釈すれば「歩いて (どこかを) 通り過ぎ～の前に行く」と解釈するだろう。言い換えれば、(4), (5)の前置詞句「～の前」は (通過場所ではなく) 到着場所を表していると解釈するだろう。(4), (5)の語順が 19 世紀当時の通過事象表現の基本的な語順であったかどうかは、歴史資料を使って追及する価値がある。しかしその追求は本稿の考察範囲を超える。

¹⁰ Bradley (1873: 438) には「統治する (<ผ่านมือ 手を経る)>」という比喩的な意味を表す ผ่าน の動詞用法 (慣用表現) も 1 例挙げられていた。ผ่านเมือง, คือได้ครองราชสมบัติ, เจ้าเมืองตายแล้วไม่มีเจ้าเมือง, ผู้ได้สมบัติครองเมืองว่าผ่านเมืองนั้น. 訳: ผ่านเมือง とは「即位し王として国を統治する」ことである。王が崩御して王がいなくなったとき、王位に就く者について、ผ่าน を使って「ผ่านเมือง 国を治める」と言う。

- (5) ผาด, ผ่านไป, คือผ่านไปเร็ว, คนเดินขาวิ่งไปหน้าบ้านแผ่นดิน, เขาว่าเดินผาดไปหน้าบ้านแผ่นดิน.

ผาด とは「通り過ぎて行く、速く通り過ぎて行く」ことである。「人が歩いて家の前などを横切って行く」ことを、ผาด を使って「เดินผาดไปหน้าบ้านแผ่นดิน 歩いて家の前などを速く通り過ぎて行く」と言う。

これらの記述から、19 世紀当時の ผ่าน は ผาด の類義語であり、その経路動詞としての基本的な意味は「前をさっとかすめて横切り、素早く通り過ぎる」ことであつたと推測される。しかし現代タイ語では「さっと」「素早く」といった移動の速度や様態の意味は薄れている。それらは ผ่าน の重要な意味要素ではなくなっている。例えば、ผ่าน を含む移動表現(1)は C 実験で得られた発話データの 1 つであるが、そのビデオクリップ映像の中の人物はゆっくり歩いている。急いで通り過ぎていくわけではない。ゆっくりのろのろと通り過ぎようが、素早くさっと通り過ぎようが、ผ่าน を使ってその移動事象を表現することが可能だ。また、かなり描写詳細度が高い「前をかすめて横切る」¹¹ といった意味も現代タイ語の ผ่าน の基本的意味ではなくなっている。ある場所の不特定部分あるいはその場所一帯を通過するときでも現代タイ語の ผ่าน は使える。通過の方向性も、必ずしも「前を横切る」のように話者の視点の位置によって決まる方向性とは限らず、不特定な方向性であつて構わない。¹²

タイ語 (Siamese, Southwestern Tai) の ผ่าน や ข้าม の意味に似た意味を表すチワン語北部方言 (Northern Zhuang, Northern Tai) の *gvaq* [kva⁴⁴] は、Burusphat and Qiaohang (2006: XXI, 179) によると、中古漢語以前の中国語からの借用語である。つまりチワン語北部方言の *gvaq* と中国語の *guò* は同根語 (cognates) である。

¹¹ 「前や傍をかすめて横切る」という意味を明示的に表したいとき、現代タイ語では複合動詞 เจียดผ่าน を使って表すことが多い。

¹² TNC の例 : เกษตรกรไม่ยอมให้สร้างคลองผ่านที่ดินของตน 農民は運河を建設して自分の所有地に通すことを容認しない ; ทารกจะได้ผ่านช่องคลอดโดยเร็ว 期待通り新生児が産道を速く通過する。

Pittayaporn (2014: 62) の語項目対応表によると、「南西タイ諸語の祖語 (Proto-Southwestern Tai) の **kwa*^B (* = 再建された語)」は「*guò* ‘transcend 超越する、凌ぐ、勝る’」に相当する「初期(6-7 世紀)中古漢語の *kwa*^C」あるいは「後期(7-11 世紀)中古漢語の *kuā*^C」と対応する。この対応関係が正しければ、タイ語の *nǎn* は、チワン語北部方言の *gvaq* と同様、*guò* の同根語である。*nǎn* の語義について Caswell (1846: 201) と Bradley (1873: 67) は「以前の数量を超える、比較対象物の数量より多い、比較対象物よりも勝る」と説明している。現代タイ語の *nǎn* にも経路動詞としての機能はない。しかし他のタイ諸語に存在する *guò* の同根語を見渡してみると、先述のチワン語北部方言の *gvaq* の例のように、経路動詞として機能しているものが少なくない。คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย (1992: 136-138) は、中国広西チワン族自治区で話されているチワン語南部方言 (Southern Zhuang, Central Tai) の *gvaq* [kwa⁴⁴] の語義を「ข้าม 越える/渡る」¹³ 「ผ่าน 通り過ぎる」と記し、*gvaq* を含む表現として「*gvaq dah* ข้ามแม่น้ำ 川を渡る」「*gvaq gvan* ผ่านด่าน 関所を通る」などを挙げている。¹⁴ Hirano (2020: 144-146, 148) によれば、ベトナム北部で話されているヌン語 (Nung, Central Tai) の *kwa*³ (³ = high rising tone) は

¹³ チワン語南部方言で「ข้าม 越える/渡る」という意味を表すのは *nǎn* の同根語 *gvaq* だけではない。ข้าม の同根語 *kamj* [kham²⁴] もある。例えば「*kamj gamx* ข้ามรั้ว 垣根を越える」「*kamj gvaiaq* ข้ามแดน 境界を越える」など (คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย 1992: 176)。しかしチワン語北部方言についてはข้าม の同根語があるのかどうかはつきりしない。Burusphat and Qiaohang (2006) には記載がない。中国雲南省及びミャンマー北部で話されているタイ・ヌア語 (Tai Nüa, Southwestern Tai) の3つの方言 (tay⁴ lɿ⁵ 語、tay⁴ maw 語、tay⁴ nɿ⁵ 語) の語項目対応表 (Harris 1975: 208) には「cross」という意味を表すข้าม の同根語の記載がある。tay⁴ lɿ⁵ 語の *xaam*³ (³ = high falling with final glottal constriction) ; tay⁴ maw 語の *khaam*³ (³ = high falling with final glottal constriction) ; tay⁴ nɿ⁵ 語の *xaam*³ (³ = mid falling with final glottal constriction)。

¹⁴ チワン語南部方言辞書 (คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย 1992: 136) には経路動詞 *gvaq* (ข้าม 渡る/越える、ผ่าน 通り過ぎる) と行為動詞 *gvaq* (เสียทาง 運勢を占う) が併記されている。同音異義語であろうか。その他 *gvaq* を含む雑多な用例が多数挙げられている。「*gvaq faez* เก็บผิด เก็บไป 過度の」「*gvaq byongh* เก็บครึ่ง กว่าครึ่ง 半分を超過する」などの用例から、チワン語南部方言の *gvaq* は、タイ語の *nǎn* に似て、「เกิน 超過する」という意味も表すことが分かる。

「pass」¹⁵という意味を表すという。このように、タイ諸語に存在する *guò* の同根語（中国語からタイ諸語へ借用されたと考えられる *nin*、*gvaq*、*kwa*³ など）は、現代において同じ意味機能を有しているとは限らない。タイ語の *nin* は経路動詞としての機能は持たないが、チワン語北部方言の *gvaq*、チワン語南部方言の *gvaq*、ヌン語の *kwa*³ は経路動詞としての機能を持つ。

タイ語の *nin*、*ผ่าน*、*ข้าม* の関係について考えてみたい。それら3語の意味関係にどのような変化があったのか、それとも変化はなかったのか、様々な筋書きが想定できる。古い時代に動詞として借用された *nin* が動詞用法を失い機能語に変化していく歴史的变化（文法化）の過程で、通過事象の意味「通り過ぎる *pass*」が *ผ่าน* に受け継がれ、越境/横断事象の意味「越える/渡る *cross*」が *ข้าม*¹⁶ に受け継がれた——*nin* の動詞用法の喪失を *ผ่าน* と *ข้าม* がそれぞれ部分的に補った——という筋書きもあり得るであろう。あるいは *nin* は初めから経路動詞ではなかった——*ผ่าน*、*ข้าม* の存在が経路動詞としての *nin* の借用を阻んだ——という別の筋書きもあり得るであろう。また、クメール語からの借用語である *ลอด*¹⁷ や *ถลัน*¹⁸ (จู่ลววรรณ

¹⁵ Hirano (2020: 143, 145) には「The child jumped over the watery ditch (and moved away from the speaker)子供が水路を飛び越えた」という英語訳が付された *kwa*³ を含む例文が挙げられている。Hirano (2020) による「pass」という語釈は「cross」も含む総称的語釈であるようだ。したがってヌン語の *kwa*³ も、チワン語の *gvaq* と同様、「pass」及び「cross」という意味で使われ得ると解釈してよいであろう。

¹⁶ タイ語では「跨ぐ/越える/渡る」という意味も19世紀には *nin* ではなく *ข้าม* によって表されていた。Caswell (1846: 144) と Bradley (1873: 85) は *ข้าม* の語義を「(道を遮る障害物を) 跨ぐ/越える」「(川を) 渡る」と説明している。なお、Bradley (1873: 85) は *ข้ามหัว* という表現を挙げ、その意味を「物や手を頭上などに持ち上げる」と説明しているが、現代タイ語の *ข้ามหัว* にはそのような動作の意味はない。

¹⁷ *ลอด* の語義について、Bradley (1873: 638) は「身体を屈めること、身体を低くし孔などを通して出て行くこと」とし、Caswell (1846: 683) は「孔を通して出て行くこと、橋などの下を潜って出て行くこと」とする。

¹⁸ *ถลัน* の語義について、Bradley (1873: 64) は「人や動物が他の場所に行ってから元の場所に戻ってくること；元々は、左脇を下にして寝る姿勢をしていたのが、寝返りを打って右脇を下にして寝る姿勢になること」とし、Caswell (1846: 195) は「悪人の心を捨て再び善人の心に戻ることに、何かの理由で家を出て他所に行ってから元の家に帰って来ること」と

ขนิษฐาพันธ์ 2007: 8, 10) が経路動詞の機能を獲得したように、*ผ่าน*、*ข้าม* もクメール語（あるいはその他の言語）から借用され経路動詞の機能を獲得したのかもしれない。どれも憶測であり、正当な根拠に基づいたものではない。どれが正しいのか、どれも正しくないのか、分からない。

3. *ผ่าน* の使用傾向：コーパス調査

TNC を使って次の2つの調査方法により *ผ่าน* の使用傾向を調べた。

1. *ผ่าน* の用例を無作為に 100 トークン抽出し、それらの品詞と意味用法を分類し、それぞれのトークン数を調べた（表 1）。*ผ่าน* にはどのような用法があるのか、それぞれの用法の使用頻度はどうか、といったことをある程度詳しく分析するためである。
2. *ผ่าน* の左隣あるいは右隣に生起している単語¹⁹ を *ผ่าน* との共起傾向が強い順にそれぞれ 100 語抽出し、それらが *ผ่าน* と共起しているトークン数を調べた（表 2、表 3）。*ผ่าน* はどのような単語と共起して使われるのか、*ผ่าน* と共起して使われる頻度が比較的高いのはどのような単語か、といったことを大雑把に把握するためである。

3. 1. *ผ่าน* の用法分類

無作為抽出した 100 例中における *ผ่าน* の使われ方を調査した結果、*ผ่าน* の意味用法は、表 1 の通り、①～⑤の 5 つに分類できることが分かった。

する。

¹⁹ 筆者には TNC の annotation に関する知識がない。TNC に収録されている文章の中で空間も句読点も挟まず連続している形態素同士をどのように 1 つ 1 つの単語項目として区切っているのか不明である。複合語の認定基準も不明である。本稿が「単語」と呼ぶ単位は TNC によって区切られた所与の単語項目であり、複数形態素で構成されるもの（複合語かどうかよく分からないもの）も含まれている。

表 1：TNC100 例中の ผ่าน の用法分類とトークン数

品詞	動詞 (合計 84)			前置詞 (合計 16)	
意味用法	① 具象移動	② 虚構移動	③ 抽象/比 喻的 移動	④ 通過経路	⑤ 道具
100 例中の数	28	5	51	1	15

動詞用法は 3 つのタイプ (①具象移動、②虚構移動、③抽象/比喩的移動) に分かれ、前置詞用法は 2 つのタイプ (④通過経路、⑤道具) に分かれる。第 1 節で紹介した จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996, 1998) の調査結果と同様、動詞用法 (84/100) のほうが前置詞用法 (16/100) より多かった。最も多かったのは「③抽象/比喩的移動」(51/100) の動詞用法で、最も少なかったのは「④通過経路」(1/100) の前置詞用法だった。จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996) が認めた「時間経過」の前置詞用法は 100 例中には含まれていなかった。①～⑤の具体例をそれぞれ(6)–(10)に挙げる。

(6) 動詞：①具象移動

- a. ไม่ว่าเป็นชายหรือหญิงเดินผ่านไป ข้าพเจ้ามองไม่เห็น

歩いて通り過ぎるのが男性であろうと女性であろうと、私には見えない。

- b. ขนส่งสินค้าผ่านพรมแดนทางบกเข้ามาในราชอาณาจักร

商品を輸送して (その商品が) 陸の国境を通過し王国内に入ってくる。

(7) 動詞：②虚構移動

- a. ขณะที่กำลังคุยซักถามรายละเอียดจากเจ้าหน้าที่อยู่ เผอิญมองผ่านหน้าต่างกระจกจากด้านข้าง เห็นลูกชายกำลังวิ่งลุยโคลนที่
บ้านฉัน

係官と話して詳細を聞いているとき、たまたま側面のガラス窓を通して見ると (見て、伸ばされた視線がガラス窓を通ると)、息子が貨物クレーンが立つ泥の中を駆け回っているのが見えた。

- b. ได้ยินเสียงตึงๆ ผ่านตัวเองไป แล้วก็ผ่านกลับมา

ドーンドーンという音が自分の傍を通過していき、また帰ってくるのが聞こえた。

(8) 動詞：③抽象/比喩的移動

- a. ภูมิปัญญาชาวบ้านในการที่จะจัดระบบสังคมตั้งแต่ระดับเรือนไปจนถึงระดับชุมชนโดยผ่านทางพิธีกรรมและความเชื่อจะแฝงอยู่ในวัฒนธรรมการอยู่อาศัยของไทยมา

社会システムを、下は家庭のレベルから上は共同体のレベルに至るまで、儀式や信仰を通じて構築する民衆の智慧は、ラオ族の居住文化の中に隠されている。

- b. ข้อเสนอที่ถูกต้านทานเป็นอย่างหนักจนไม่อาจผ่านออกมามีผลบังคับใช้ได้

この法案は激しい抵抗にあった。審議を通過して施行されることにはなりそうにない。

- c. เวลาผ่านไปหลายศตวรรษแล้ว

すでに何十年も経過した。

(9) 前置詞：④通過経路

ปกติภายในลูกตาจะมีน้ำหล่อเลี้ยงอยู่ตลอดเวลา เกิดจากการสร้างขึ้นใหม่ทางด้านซีเลียร์ แล้วไหลเวียนเข้าช่องลูกตา
ด้านหน้าผ่านทางช่องม่านตา

通常、眼球内は常に房水で満たされている。毛様体側から新たに作られた房水は眼球の前面に回り込むように流れ、虹彩の隙間を通過して隅角に入る。

[2010 年出版の自然・純粹科学分野の文書]

(10) 前置詞：⑤道具

- a. การสัมภาษณ์ผ่านโทรศัพท์จึงช่วยประหยัดเวลาและอาจให้ผลดีกว่าการสัมภาษณ์แบบซึ่งหน้าหลายประการ

電話を通じたインタビューは時間の節約になり、多くの点において対面のイ

インタビューよりもよい結果をもたらすかもしれない。

- b. นอกเหนือจากวิธีการศึกษาและวิจัยหลักๆ ข้างต้นแล้วยังมีการศึกษาผ่านสื่อมวลชนต่างๆ

先に述べた基本的な教育方法や研究方法の他にも、様々なマスメディアを通じた教育がある。

(9)が 100 例の中で唯一見つかった通過経路を表す前置詞 ผ่าน の例であるが、直示動詞 (ไป 行く、มา 来る) と共起していないこともあり、具象移動を表す動詞 ผ่าน の用法と紛らわしい。そこで改めて TNC を使って用例を探したところ、(11) に挙げた 2 つの例が見つかった。これらの ผ่าน は紛れもなく通過経路を表す前置詞として使われている。

(11) 前置詞：④通過経路

- a. กระบวนการนี้เรียกว่า Underground Gasification ซึ่งทำโดยการอัดไอน้ำและออกซิเจนเข้าไปในชั้นถ่านหินผ่านหลุมเจาะจากพื้นผิวดิน

この過程は「地下ガス化」と呼ばれる。その方法は、地表からあけた孔を通じて、水蒸気と酸素を石炭層の中に圧縮注入する。[2007 年出版の応用科学分野の文書]

- b. พ.ต.ชาคริตก้าวนำเขาไปผ่านโถงโล่ง

チャークリット博士は、大広間の中を、ゆっくり歩みを進め彼を連れていった。[2000 年出版の文芸作品]

第 1 節で述べた通り、C 実験の発話データに含まれていた通過経路を表す前置詞 ผ่าน の例は虚構移動表現(2)だけであった。しかし今回のコーパス調査によって明らかになった事実は、目に見える現実の物理的移動を表す場合でも ผ่าน は通過経路を表す前置詞として使われることがあるということである。ただし、いずれにせよ通過経路を表す前置詞 ผ่าน の使用頻度は非常に低い。

そして今回の調査結果のもう 1 つの重要な点は、時間経過を表す前置詞 ผ่าน の用例 (จรัสตา อินทรทัศน์ (1996) の例: อุปรากรจีนคงทนผ่านกาลเวลา 京劇は時を経て不変だ) が TNC から無作為抽出した 100 例中には見つからなかったということである。この結果は、時間経過を表す前置詞 ผ่าน の使用頻度は、通過経路を表す前置詞 ผ่าน の使用頻度よりさらに低いであろうことを示唆する。

残念ながら今回の調査では経路前置詞 ผ่าน の使用条件を考察するに足るだけの用例が十分に収集できなかった。しかし収集できた用例の具体的な通過事象——「(9)水が虹彩の隙間を流れて通る」「(11a)水蒸気と酸素が圧縮されて地中の孔を通る」「(11b)人が大広間を歩いて通る」——から多少なりとも見えてきたことがある。それは、経路前置詞 ผ่าน は経路動詞 ผ่าน に似て汎用性が高く、描写される通過事象がどのような種類の通過事象であってもその通過場所を明示するために使えるということである。ผ่าน は、動的に使われる動詞 ผ่าน であれ、静的に使われる前置詞 ผ่าน であれ、描写される通過事象の各意味要素の種類を問わずに広く使うことができると言える。

本稿の経路前置詞 ผ่าน の用例(2), (9), (11a), (11b)に即して言えば、「(2)視線〈虚構の固体〉」「(9)水〈液体〉」「(11a)水蒸気と酸素〈気体〉」「(11b)人〈固体〉」などの多様な移動物に適合し、「(2)伸ばされて動く〈受動的〉」「(9)流れる〈自発的〉」「(11a)圧力を受けて動く〈受動的〉」「(11b)歩く〈能動的〉」などの多様な移動の様態/手段/付帯状況にも適合し、「(2)出入口〈ある大きさに区切られた奥行きのない空間〉」「(9)虹彩の隙間〈狭く奥行きのない空間〉」「(11a)地中の孔〈直線的で長い筒状の空間〉」「(11b)大広間〈広い空間〉」などの多様な通過場所にも適合する。

用例の出所に注目すると、(2)はビデオクリップ画面の移動事象を描写した短い「発話データ」、(9)と(11a)は理屈を優先し論理的な書き方に徹した「科学分野の学術文書」、(11b)は審美的表現を追求する傾向が強い「文芸作品」である。経路前置詞 ผ่าน はこのように、話し言葉では少なくとも状況説明の語りのジャンル

で使われ、書き言葉では少なくとも学術や文学のジャンルで使われている。

3. 2. ผ่าน の共起傾向

本節では、動詞 ผ่าน か前置詞 ผ่าน かの区別を捨象し、とにかく形態素 ผ่าน はどのような単語と共起する傾向が強いのか、左隣（直前）に生起するのはどのような単語か、右隣（直後）に生起するのはどのような単語か、そうした共起傾向について調査した結果を報告する。

表2は ผ่าน の左隣（前）に生起する頻度が高い単語（49語）の一覧であり、表3は ผ่าน の右隣（後ろ）に生起する頻度が高い単語（31語）の一覧である。いずれも ผ่าน との共起率が高い順に抽出された100語の中から共起トークン数が1,000以上の単語を拾い、共起トークン数が高い順番（1～49、1～31）に並べ直したものである。共起トークン数を括弧の中に示した。

表2の左上欄の「1、เวลา 時間、(61,626)」は次のことを意味している。トークン数が1番目に高かった単語は「เวลา 時間」で、เวลา が ผ่าน の左隣に生起する共起形「เวลาผ่าน 時間が経過する」のトークン数は61,626だった。同様に、表3の左上欄の「1、ประตู 扉、(9,240)」は次のことを意味している。トークン数が1番目に高かった単語は「ประตู 扉」で、ประตู が ผ่าน の右隣に生起する共起形「ผ่านประตู 扉を通過する」のトークン数は9,240だった。

また、ผ่าน と共起する場合、具象移動の意味を表すことが多いであろうと考えられる単語——例えば、表1では「เดิน 歩く」「ส่ง 送る」「เดินทาง 長距離を移動する」「วิ่ง 走る」「ไหล 流れる」など、表2では「ประตู 扉」「เข้าสู่อ 入って留まる」「ช่อง 隙間」「รู 孔」など——には網掛けを施した。ただしこれはTNC用例の前後の文脈を参照した訳ではなく、あくまでも各単語の語義からの推測である。

表 2 : ผ่าน の左隣での共起トークン数が多い単語 (_ ผ่าน)

1 เวลา 時間 (61,626)	11 ติดต่อ 連絡する (6,936)	21 บัตร カード (3,149)	31 สะพาน 橋 (1,887)	41 ซึม 浸みる (1,391)
2 มอง 見る (34,330)	12 สื่อสาร 通信する (6,529)	22 ถ่ายทอด 中継する (2,611)	32 ส่อง 照らす (1,854)	42 เคลื่อนที่ 移動する (1,362)
3 เดิน 歩く (29,373)	13 ไหล 流れる (5,919)	23 ขับ 運転する (2,527)	33 พัด 風が吹く (1,811)	43 ช่องทาง 道/方法 (1,278)
4 ส่ง 送る (26,211)	14 โน้ต 楽譜 (5,728)	24 เผยแพร่ 宣伝する (2,498)	34 ใช้จ่าย 支出する (1,793)	44 เล่น 遊ぶ (1,224)
5 เปลี่ยน 変わる (15,672)	15 ก้าว 歩む (5,198)	25 ทอด 伸びる (2,469)	35 บริจาค 寄付する (1,772)	45 จอง 予約する (1,206)
6 เดินทาง 長距離を 移動する (12,410)	16 สอบ 調べる (5,018)	26 รถไฟ 列車 (2,400)	36 บังเอิญ 偶然 (1,743)	46 ดวงจันทร์ 月 (1,186)
7 หลังจาก~の後 (11,058)	17 บิน 飛ぶ (4,252)	27 แถบ 列 (2,336)	37 กาล 時 (1,689)	47 รหัส コード (1,091)
8 วิ่ง 走る (8,623)	18 ลอย 浮く (3,843)	28 ลาก 引きずる (2,106)	38 อ้อม 迂回する (1,658)	48 ร้องเรียน 訴える (1,041)
9 เพิ่ง~したばかり (7,746)	19 แสดงออก 表明する (3,294)	29 พุ่ง 突進する (2,009)	39 ดวงอาทิตย์ 太陽 (1,596)	49 ทรง ろ過する (1,040)
10 ตัด 横断する (7,463)	20 ขับรถ 車を運転 する (3,293)	30 เคลื่อน 動く (1,985)	40 จักรยาน 自転車 (1,406)	

表 3 : ผ่าน の右隣での共起トークン数が多い単語 (ผ่าน __)

1 ประตู 扉 (9,240)	11 สื่อมวลชน มสเมเดีย (2,498)	21 แดน 境界 (1,698)	31 ดาวเทียม 人工衛星 (1,003)
2 กระบวนการ 過程 (8,585)	12 เครือข่าย ネットワーク (2,367)	22 เว็บ ウェブ (1,582)	
3 สื่อ เมเดีย (6,248)	13 อุปสรรค 障害 (2,272)	23 ทุ่ง 野原 (1,576)	
4 ประสบการณ์ 經驗 (5,597)	14 กระจก ガラス (2,203)	24 ความถี่ 頻度 (1,318)	
5 เข้าสู่ 入って留まる (4,905)	15 รู 孔 (2,057)	25 ช่องทาง 道/方法 (1,278)	
6 ขั้นตอน 段階 (4,247)	16 ผิวหนัง 皮膚 (2,044)	26 วิกฤติ 危機 (1,226)	
7 ช่อง 隙間 (4,098)	17 หน้าต่าง 窓 (1,967)	27 วิกฤต 危機 (1,203)	
8 เกณฑ์ 基準 (3,092)	18 มายัง~に来る (1,962)	28 จอ 画面 (1,150)	
9 โครง 構造 (2,908)	19 กล้อง カメラ (1,940)	29 พิธีกรรม 儀式 (1,150)	
10 กลไก 仕組み (2,699)	20 สะพาน 橋 (1,887)	30 ด่าน 検問所 (1,018)	

表 2 と表 3 から読み取れることを、以下、それぞれ簡潔にまとめる。

表 2 で顕著なことは、「เวลาผ่าน 時間が経過する(61,626)」という抽象/比喩的移動タイプの共起形のトークン数が非常に多いことである。2 番目にトークン数が多い虚構移動タイプの共起形「มองผ่าน (何か) を通して見る、(何か) 越しに見る

(34,330)」との差は 28,296 もある。3.1 節の表 1 に示した通り、ผ่าน の最も使用頻度の高い用法は抽象/比喩的移動の用法であるが、その中でも特に慣用表現として定着している「เวลาผ่าน 時間が経過する」の使用頻度が圧倒的に高いのであろうと推測される。

表 2 の 49 単語（左隣の単語：__ผ่าน）のトークン数の差（61,626～1,040）に比べ、表 3 の 31 単語（右隣の単語：ผ่าน__）のトークン数にはそれほど大きな差はない（9,240～1,003）。表 3 で最もトークン数が多いのは具象移動タイプの共起形「ผ่านประตู 扉を通り過ぎる」であるが、そのトークン数は 10,000 に届かず 9,240 である。表 2 には 10,000 トークン以上の単語が 7 つ、1,000 トークン以上の単語が 49 あるのに対し、表 3 には 10,000 トークン以上の単語が 1 つも含まれておらず、1,000 トークン以上の単語も 31 しかない。

表 2 と表 3 に共通することとして、列挙されている単語の意味範囲が比較的に広いこと、逆から言えば、あまり偏っていないことが指摘できる。この事実は、先述の通り、ผ่าน は描写される通過事象がどのような種類の通過事象であっても使えるという ผ่าน の汎用性の高さを示唆する。

網掛けされている単語と共起するとき ผ่าน は具象的な通過事象の描写で使われている割合が高いのではないかと考えられるが、網掛けされた単語の割合は、表 2 では全体の約 45%（22/49）、表 3 では全体の約 35%（11/31）を占める。網掛けされた単語の合計トークン数も、表 2 では全体の約 38%（121,066/316,640）、表 3 では全体の約 37%（31,763/87,010）に及ぶ。表 1 に示した通り、使用頻度が 2 番目に高い ผ่าน の用法は具象移動の用法であることが納得される。

4. おわりに

Caswell (1846) と Bradley (1873) の記述から推定される 19 世紀頃の ผ่าน の用法、จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996, 1998) のコーパス調査で明らかにされた 1990-1994 年頃の ผ่าน の用法、そして本稿のコーパス調査によって大まかに捉えられた主に最近

の ผ่าน の用法、それら3つの異なる時代の用法にはそれぞれ違いがあり、ผ่าน の使用傾向の通時的変化が多少なりとも窺える。

本稿が注目した前置詞 ผ่าน の用法については、扱ったデータが限られているため正確性に欠けるものの、およそ以下のようなことが分かった。Caswell (1846) と Bradley (1873) には ผ่าน の前置詞用法に関する記述がなく、19世紀当時に ผ่าน が前置詞として使われていたのかどうかははっきりしない。จรัสดาว อินทรทัศน์ (1996, 1998) が扱った 1990-1994年のデータでは、時間経過の用法は認められたが、通過経路の用法は、第1節で説明したように、積極的には認められなかった。逆に、本稿が扱った TNC からの無作為抽出データでは、時間経過の用法は認められなかったが、通過経路の用法(例:(9), (11a), (11b))は認められた。なお、どちらのデータにおいても最も使用頻度の高い前置詞用法は道具の用法(例:(10a), (10b))である。

前置詞 ผ่าน が表す道具の意味は、具象的道具(例: นำเสนอผ่านเครื่องฉายแผ่นใส OHP フィルム映写機を通して提示する)よりも、抽象的道具(例: เผยแพร่ผ่านสื่อมวลชน マスメディアを通じて流布する)のほうが多い。具象的道具は多くの場合、他の前置詞(ด้วย や กับ など)によって表される。²⁰ さらに言えば、具象的道具を表す最も典型的な統語形式は動作動詞(เอา や ใช้ など)を含む動詞句連続体である。²¹

本稿の調査では経路前置詞 ผ่าน の用例を十分に収集することができず、その使用条件の詳しい分析には至らなかった。今後の広範且つ詳細な調査を待たなければならない。取り敢えず、本稿の小さな発見として次の2点を挙げておく。第一に、学術ジャンルと文学ジャンルの文章の中で経路前置詞 ผ่าน が実際に使われていることが確認できた。第二に、経路前置詞 ผ่าน は、経路動詞 ผ่าน と同様、描写

²⁰ TNC の例: ตัดเนื้อหมี่ด้วยมีดโต 大きなナイフで熊の肉を切る; หักกินลูกแอปเปิ้ลกับมีดและส้อม リンゴの実をナイフとフォークで食べる訓練をする。

²¹ TNC の例: เขามีดปาดคอสามี ナイフを手持って夫の首を斬る=ナイフで夫の首を斬る; ใช้มีดปอกเปลือกออก ナイフを使って皮を剥く=ナイフで皮を剥く。

される通過事象がどのような種類の通過事象であってもその通過経路を表すために汎用的に使われていることが観察できた。

謝辞

本稿は、科研費共同研究プロジェクト「移動表現による言語類型：実験的統一課題による通言語的研究」（番号：15H03206；代表者：松本曜）と「空間移動と状態変化の表現の並行性に関する統一的通言語的研究」（番号：19H01264；代表者：松本曜）、及び国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学的観点から見た日本語の音声と文法」の研究成果の一部である。

参考文献

〈タイ語〉

- คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย [Faculty of Arts, Chulalongkorn University]. 1992. พจนานุกรม
จังหวัดไทย [A Southern Zhuang – Thai Dictionary]. กรุงเทพฯ: โรงพิมพ์จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย.
- จรัสดาว อินทรทัศน [Intratrat, Charatdao]. 1996. กระบวนการที่คำกริยากลายเป็นคำบุพบทในภาษาไทย
[Grammaticalization of Verbs into Prepositions in Thai]. Ph.D. dissertation,
Chulalongkorn University.
- จรัสดาว อินทรทัศน [Intratrat, Charatdao]. 1998. กระบวนการที่คำกริยากลายเป็นคำบุพบทในภาษาไทย
[Grammaticalization of Verbs into Prepositions in Thai]. *Journal of Language and
Linguistics* 17(1), 1–20.
- วิไลวรรณ ขนิษฐานันท์ [Khanittanan, Wilaiwan]. 2007. อิทธิพลภาษาอังกฤษ ภาษาเขมร และภาษาจีนในภาษาไทย:
มุมมองใหม่ [Chinese, Khmer, and English influence in Thai: A new perspective]. *Journal
of Language and Linguistics* 26:1, 1–24.
- Bradley, Dan Beach. 1873/1971 (reprinted). หนังสืออักษรชาติศรีบรห์ [Dictionary of the Siamese
Language]. กรุงเทพฯ: โรงพิมพ์คุรุสภาลาดพร้าว.
- Caswell, J. 1846/2001 (reprinted). *A Dictionary of the Siamese Language*. กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์

แห่งจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย.

〈英語〉

- Burusphat, Somsong and Qin Qiaohang. 2006. *Northern Zhuang – Chinese – Thai – English Dictionary*. Bangkok: Ekphimthai.
- Harris, Jimmy G. 1975. A comparative word list of three Tai Nüa dialects. In Harris, Jimmy G. and James R. Chamberlain (eds.) *Studies in Tai Linguistics in Honor of William J. Gedney*, 202–230. Bangkok: Central Institute of English Language, Office of State University.
- Hirano, Ayaka. 2020. *Journal of Research Institute (Research Institute for Foreign Studies, Kobe City University of Foreign Studies)* Vol. 61: *Topics in Middle Mekong Linguistics 2*, 137–158.
- Pittayaporn, Pittayawat. 2014. Layers of Chinese loanwords in Proto-Southwestern Tai as evidence for the dating of the spread of Southwestern Tai. *MANUSAYA, Special issue*, Volume 20, 47–68.
- Takahashi, Kiyoko. 2001. Perception types of emanation fictive motions in Thai. 『第2回日本認知言語学会全国大会予稿集』, 42–51.
- Takahashi, Kiyoko. 2005. The allative preposition in Thai. In Paul Sidwell (ed.), *SEALS XV: Papers from the 15th meeting of the Southeast Asian Linguistics Society (2005)*, 111–120. Canberra: Pacific Linguistics.
- Takahashi, Kiyoko. 2009. Arrival expressions in Thai. *Journal of the Southeast Asian Linguistics Society 2*: 175–193.
- Takahashi, Kiyoko. 2017. Mandarin Chinese and Thai expressions of caused motion: Different caused-motion components in verb-serializing languages. *Language and Linguistics in Oceania 9, Special issue No. 2: South East Asian linguistics*, 43–69.
- Takahashi, Kiyoko. 2020. Syntactic and semantic structures of Thai motion expressions. In Matsumoto, Yo and Kazuhiro Kawachi (eds.) *Broader Perspectives on Motion Event*

Descriptions, Chapter 4: 105–140. Amsterdam: John Benjamins.

Takahashi, Kiyoko (with Yo Matsumoto, Kimi Akita, Anna Bordilovskaya, Kiyoko Eguchi, Hiroaki Koga, Miho Mano, Ikuko Matsuse, Takahiro Morita, Naonori Nagaya, Ryosuke Takahashi, and Yuko Yoshinari). to appear. Linguistic representations of visual motion: A crosslinguistic experimental study. In Sarda, Laura and Benjamin Fagard (eds.) *Neglected Aspects of Motion Events Description: Deixis, Asymmetries, Constructions*. Amsterdam: John Benjamins

Talmy, Leonard. 1996. Fictive motion in language and “ception”. In Bloom, Paul et al. (ed.) *Language and Space*, Chapter 6: 211–276. MIT Press: Cambridge.

Talmy, Leonard. 2000. Chapter 2: Fictive motion in language and “ception”. *Toward a Cognitive Semantics, Volume I: Concept Structuring Systems*, 99–175. MIT Press: Cambridge.

〈日本語〉

高橋清子. 2017. 「タイ語の移動表現」松本曜（編）『移動表現の類型論』第 6 章: 129–158. 東京：くろしお出版.

高橋清子. 2018a. 「タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する：ビデオクリップ実験から得られた移動表現の一分析」『神田外語大学紀要』第 30 号, 435–453.

高橋清子. 2018b. 「タイ語移動表現の経路表示」『第 157 回日本語学会大会予稿集』, 374–379.

高橋清子. 2021. 「動詞/前置詞 *มี* の用法分析：タイ語教育のための一資料」『神田外語大学紀要』第 33 号, 237–252.

電子コーパス

TNC: Thai National Corpus (Third Edition) 〈<http://www.arts.chula.ac.th/~ling/tnc3/>〉

(検索日：2021 年 5 月 14 日, 29 日)